



湧水 地域の井  
いっかん  
**一貫ガー**  
所在地/西原町字森川45番地の1



一貫ガーは西原町字森川にある湧泉で、別名「森川ヒージャーガー」と呼ばれている。道沿いに面しているものの、今でも滾々（こんこん）と流れる水の音や周囲の緑に、かつてこのカーを生活の一部としていた人たちの息づかいが聞こえてくる。水道が整備されるまでは地域の飲み水をはじめ生活すべてに利用されていた。

一貫ガーという名称は昔、7カ月にわたる干ばつがあったときに隣の浦添西原部落の人々が一貫（二銭）ずつ出した。

合い、同カーを改修したこと由来している。現在ではコンクリートで整備されているが、戦前までは二つの石製の桶があり、その下にクチャを掘った溜め池がつけられていた。

同カーは集落の聖地としてもあがめられている。また、戦争中に戦火を追われ、このカーの水を飲んで生き延びた人々が今でも各地から拝みにくるといふ。

地元の島袋正松さん（91歳）は「私が生まれたときはカーの水を産水（うぶみず）に使ったんだよ。このカーのおかげでこの部落はとても助かった。今でも干ばつのおかたにはカーの水を飲むよ」、妻のチヨさん（88歳）「昔はこのカーで洗濯したり野菜を洗ったりしたさ。私たちにとっては命の水だから、今でもカーの清掃をしてきれいにしているんだよ」と語った。同カーは多くの命を育んだ湧泉として今なお大切に守られている。



処理方式の選定手順について説明を受ける部会の委員

第1部会（施設建設選定部会）

# 処理方式 8月決定に向け協議！

第1部会（施設建設選定部会）照屋義実会長の第2回会議が6月18日、午後5時から南部広域行政組合会議室で行われた。

会議では、8月中に決定を予定している「ごみ処理方式」について協議され、南廃協時代のデータも参考にし、灰溶融施設及び被覆型最終処分場の建設については選択の余地を残すこととしながらも、全国の先進地の処理方式も視野に入れながら広域で考えられる処理方式は全て検討していくことが確認された。

さらに、事務局から提案された、県内外の先進地視察の日程も了承された。

## 委員からの質問は次の通り

◎ 6月29日の先進地視察で島尻と東部の施設を見学するようだが、二施設よりも新しい糸豊清掃施設組合もスケジュールに組み込んではどうか。

◎ 今回の視察の目的は、サザン協を構成する市町の施設見学を想定したものであるが、必要ならば視察に加えてもよい。

◎ 福岡の玄海環境組合はガス化（直接）溶融施設だが稼働期間はどのくらいなのか。次回までに資料提出をお願いしたい。

◎ 視察にかかる一人あたりの費用は。

◎ 二泊三日で約7万前後を予定している。

◎ コンサルタント業者は。

◎ 現在時点ではまだ確定していない。県内外から実績のあるコンサルタントの一覧表を作成している。資料を理事に提示して決定していく方針である。

◎ 前回、徳島県上勝町や築上郡椎田町の視察を提案したが今後のスケジュールに組み込まれるのか。

◎ 既存の施設から出る焼却灰をどのように処理していくかという議論の中で現時点での視察は考えていない。ただ、第3部会におけるごみ減量化の

中で必要な時期に実施することは可能である。

◎ 今回の視察先は我々の目指す灰溶融方式とは違うのでは。

◎ 灰溶融方式＋埋立型最終処分場に限定した話ではない。いろいろな処理方式も勉強していこうということである。

◎ 7月10日の理事との合同会議の意図は。

◎ 理事会のメンバーである構成市町の首長は、五市町長協議会という枠組みの中で県外出張の合間に先進地視察を重ね、ごみ処理の現状について十分認識を持っている。幅広い議論を交わす意味で理事と部会の意見交換という場を設けた。

・理事である首長が積極的に勉強しているということからして非常によい機会だと思ふ。

◎ 視察日程の中で玄海環境施設

設のガス化（直接）溶融施設がある。残渣が出ない方式だが、視察をする必要があるのか？  
◎ あらゆるケースを想定した処理方式を見る必要がある。

### 第1部会のスケジュール

7月2日(月)	9:00～ ごみ処理メーカー説明会 13:30～ 先進地視察(浦添クリーンセンター、那覇市・南風原町クリーンセンター)
7月4日(水) ～6日(金)	県外視察研修 玄海環境組合宗像清掃工場(福岡県) 玄海環境組合古賀清掃工場(福岡県) 有明広域行政事務組合(熊本県) 都城市最終処分場(宮崎県)
7月10日(火)	16:00～ 理事会及び第1部会合同会議
7月24日(火)	14:00～ 第3回会議(ごみ処理方式の検討)
8月9日(木)	14:00～ 第4回会議(ごみ処理方式の決定)

# ごみ処理方式ドットコム勉強会

第1部会では18日会議の終了後、“最近の廃棄物処理技術の動向について”と題し、全国各地の自治体でごみ処理施設建設における全国都市清掃会議の技術アドバイザーの栗原英隆氏を講師に迎えて全国の処理方法の事例について学んだ。

## 講演内容 「ごみの減量化が大事だ!!」

栗原氏は「山はあっても土地が狭い日本やスイスにおいて、広大な敷地を要する埋立方式は積極的に取り入れていくことは考えられない」「ゴミの熱処理において日本は世界でもっとも進んだ技術を持っている。もっとも大事なことはごみ減容化であり、自治体が一番に取り組む課題である」と話した。参加人数は部会の委員や理事を含む27名。

### 講師プロフィール

社団法人全国都市清掃会議  
技術部長 栗原英隆氏



市区町村が行う清掃事業の効率的な運営と技術の向上のため必要な、調査・研究・情報の収集と管理などを行っている。

## 質問は次の通り

大城順子

◎ バグフィルターを使って飛灰を取り除く時、活性炭、触媒を使用することだが、その段階でダイオキシンなどの有害物質が付着した活性炭などはどのように処理するのか。

諸見里米子

◎ 食品リサイクル法においてプラスチックなどを燃やして熱回収するシステムを導入するのは、発電機を設置するのはコスト面でどちらが有利か。

◎ プラスチックは不燃ごみとして扱われているが、もともと石油を原料としているので燃えないはずがない。コスト面で

東部清掃大城議長

◎ 南部地区の3つの焼却場を延命して焼却灰を処理していくにはどのような方法があるのか。

◎ 施設から出る濡れた焼却灰を溶かすには、基本的にストーカ+灰溶解方式の焼却施設が必要になるだろう。最終処分場を延命するにはごみを溶解する必要がある。シャフト方式のガス化溶解でも可能だがごみに加える燃料の量が増える。

山口修

◎ 全国的に溶解炉の爆発事故が起きているが、事故を未然に防ぐ技術は確立されているのか

事故は起きるものと想定してお聞きしたい。また事故を起こした機種のメーカー名も教えて頂きたい。

◎ 40年の長い歴史を持つストーカ方式に比べ、溶解炉を動かすためにはオペレーターにもしっかりとした知識が必要だ。メーカー側からの技術指導を含め全体的なサポートで事故を未然に防ぐことは可能だ。オペレーションのミスと機種の事故がある。公開されている事故の資料は保管している部分で提供していきたい。



講演の後委員から質疑が出された

第4部会(広域化研究部会)

# し尿処理の広域化も検討

第4部会(広域化研究部会)の第2回会議が6月22日、午後2時より南部広域行政組合会議室で開催された。部会では、ごみ処理施設における広域化は構成する5市町長の中で検討していくことが確認されているが、合わせて、し尿処理も広域化で検討する必要があるかとの部会からの提案で話し合いを行った。

現在、し尿処理は東部清掃施設組合及び島尻消防清掃施設組合、糸満市・豊見城市清掃施設組合ともそれぞれ処理しているが、いずれの施設も築数十年が経過しているため老朽化による改築の必要性があることが報告され、近年の厳しい財政状況を考えると、3つの施設の基幹改良を広域での施設建設に切り替え、ごみ処理も含めた組織の一元化を図ることが望ましいのではないかと、将来的に広域的な組織運営が可能になると、一般廃棄物の中長期的展望に立った安全、安定的な処理が推進できるとし、これらについては引き続き精力的に調査・検討していくことが確認された。



築33年が経過し、老朽化が著しい東部清掃施設組合の西原処理場



築20年の清澄苑し尿処理施設

## サザン協7月のスケジュール

7月2日(月)	9:00~12:00 処理方式についてメーカー説明会(第1部会) 13:30~17:00 県内各施設の視察(第1部会)
7月3日(火)	10:00~12:00 第1回事務局連絡会 13:30~16:20 コンサル業者プロポーザル(5市町長会議) 16:30~17:30 サザン協正副会長会議
7月4日(水) 6日(金)	福岡、熊本、宮崎県視察(第1部会)
7月10日(火)	15:00~17:00 理事会及び第1部会合同会議
7月19日(木)	15:00~ サザン協市町長会議
7月24日(火)	14:00~ 第1部会



広域化について活発な議論が交わされた

## 事務局だより

「ごみの熟処理については日本は世界でもっとも進んだ地域である」全国都市清掃会議の栗原英隆氏のことばである。氏は全国の市町村で同様の問題に立ち会ってきた経歴を持つ▼サザン協の方向性について、膨大な資料、事例を交えながら専門的な見地からアドバイスをした。施設建設選定部会の委員もさまざまな疑問をぶつけ、県外先進地視察を前に大変有意義な勉強の場がもてたと感じたに違いない▼部会の会議では様々な議論が出る。詳細な資料要求のほか、事務局側への要望も多く本当によく勉強しているなど感じる。構成市町の理事も出張中の多忙な時間を割いて積極的な先進地視察を重ねているという。ごみ問題に関わる一人一人の情報量は確実に増え、個人の活動範囲が広がってきているのもまた事実だ▼8月にはごみ処理方式の比較検討を行い、理事会へ答申する。色々な立場から集約された結論は尊重して受け入れたものだ。(名)

発行者

サザンクリーンセンター  
推進協議会会長 古堅國雄

住所

〒901-0401 島尻郡八重瀬町  
字東風平965番地

電話

098(998)8857

FAX

098(998)9420

<http://sazankyo.net>